

大会宣言

「希望に輝く未来のために、いまともにたたかおう」のスローガンを掲げ、結成してから 30 年。山形県労連は、様々な逆風や攻撃にも屈することなく「すべての働く者の人間らしい生活の実現」をめざしてたたかい続けた。コロナ禍が労働者・国民の“命・暮らし・雇用・営業”を直撃している未曾有の社会状況のもと、山形県労連の価値と役割があらためて鮮明になっている。

コロナ禍は、「新自由主義」の誤りを浮き彫りにした。利益・効率を最優先に、医療・公務公共サービスを切り捨て、働くルールを破棄し、「民営化」「規制緩和」「自己責任」を押し進めてきた「新自由主義政策」が事態を深刻にしている。コロナによる困難は、とりわけ非正規労働者や女性労働者など弱者に集中し、「貧困と格差」の拡大や脆弱すぎる生活基盤が可視化されるなか、「こんな政治で良いのか」と新しい政治を望む世論が強まっている。その声は、民意無視・国政私物化の安倍政権への怒りの声と合流し、検察庁法改定法案を廃案に追い込むなど、政治を動かし始めている。

安倍首相は、自公政治の行き詰まりの末、ついに辞任を表明した。

コロナ後の社会を「新自由主義」がいつそう闊歩する社会にしてしまうのか、それとも、誰もが人間らしく生活できる、憲法を守り活かす社会に変えるのか、未来が問われる激しいせめぎあいのなかで、山形県労連第 32 回定期大会は開催された。

大会は、第一に、要求を前面に掲げ、日常生活を活性化し、「組織拡大強化」を引き続き推進すること、第二に、「8 時間働けば人間らしく暮らせる社会をつくる」ために職場の働くルールの強化と法制度の改革に向けた運動を進めること、第三に、「安倍 9 条改憲阻止、憲法を守りいかそう」の世論と共同を一層発展させ、安倍政治の継承を許さず、改憲策動に終止符を打つために、衆議院選挙も見据えて総力をあげてたたかうことを確認した。

大会討論では、コロナ感染の危険にさらされながら最前線で奮闘する医療や福祉、公務公共サービス、教育、流通、小売り、その他各産業の労働者の切実な要求とたたかいが語られた。

豪雨災害は「命と暮らしを守ることこそ、政治の役割があるはずだ」と政治への要求を明らかにした。

さらに、「新 4 か年計画にもとづく組織拡大運動」、「最低生計費資産調査を力に『最賃引き上げ』『全国一律最賃制』を求める運動」、「非正規労働者の要求実現と組織化」、「要求にこだわって粘り強く闘った春闘」、「野党と市民の共同の前進」、「労働者の SOS に寄り添う労働相談活動」など、地域・職場から豊かな取り組みとたたかう決意が述べられた。コロナ禍の困難もとで知恵と工夫を集めて運動が続けられている。「あきらめずに声を上げよう」「声を上げれば変えられる」ことが確信となった。

コロナ禍の今こそ、山形県労連の出番だ。結成の原点をあらためて確認し、労働者・県民の困難を解決するためにたたかい、切実な要求にもとづく一致点で共同をさらに広げよう。

「コロナ危機を克服し、安倍改憲を止め、憲法が活きる社会を。雇用を守り、8 時間働いて人間らしく暮らせる社会を。すべての労働者を視野に組織と要求を前進させ、未来を切り拓こう」。

この大会スローガンのもと、早期に 5000 人県労連を建設し、激しいせめぎあいに必ず勝利しよう。

2020 年 9 月 5 日

山形県労働組合総連合第 32 回定期大会